

韓国

長引く輸出不振が景気の重し

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 立石 宗一郎
 tateishi.soichiro@jri.co.jp

■半導体輸出の年内回復は望み薄

韓国の2023年1~3月期の実質GDP成長率は前期比+0.3%と、前期の同▲0.4%から2四半期ぶりにプラスに転じた。需要項目別では、個人消費が同+0.5%と前期(同▲0.6%)から持ち直した。屋内でのマスク着用義務が撤廃される等活動制限が緩和されたことを受けて、旅行や飲食等のサービス消費が増加した。また、輸出が同+3.8%(前期同▲4.6%)と増加に転じた。主力の半導体輸出は落ち込んだが、部品の供給不足が解消されたことを受けて、自動車輸出が米国向けを中心に増加した。総資本形成は、半導体関連の民間設備投資を中心に同▲0.9%と前期(同+0.8%)から減少に転じた。

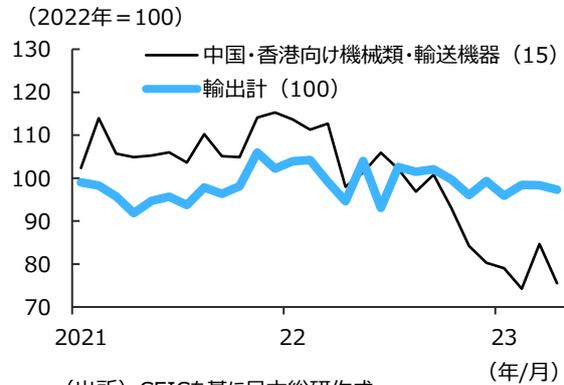
今後も個人消費は堅調に推移し、引き続き景気を下支えすると見込まれる。5月には新型コロナウイルスの取扱いが「エンデミック(日常的に流行する感染症)」に移行する等、経済活動は一段と正常化に向かうと考えられる。

一方、輸出の不振は継続すると見込まれる。4月の実質輸出は前月比▲1.1%と2ヵ月連続で減少しており、4~6月期の輸出は1~3月期から減少に転じる可能性がある(右上図)。なかでも、半導体市場の悪化と中国での財需要低迷を反映して、中国向けの機械類・輸送機器が同▲10.8%と大きく減少したことが影響している。半導体大手サムスン電子は減産を発表する等、在庫調整の動きが長引いており、半導体需要が回復するのは2024年以降と予想される。年内の景気は輸出による押し上げは期待薄であり、個人消費に支えられた緩やかな回復となる見通しである。

■高金利の長期化が景気を下押しする懸念

韓国では金利が高止まりしており、内需への下押し圧力が強まっている。韓国銀行(中央銀行)は、4月に2会合連続の政策金利据え置きを決定した。今後も、政策金利は高い水準で据え置かれると予想される。消費者物価の伸びは2022年夏をピークに鈍化傾向にあるものの、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は4月に前年同月比+4.0%と高止まりしている(右下図)。これには、通貨安による輸入価格の上昇が幅広い財の価格を押し上げていることが影響している。また、労働組合が処遇改善への要求を強めていることを背景に賃金が上昇しており、サービス価格の上昇につながっている。当面はインフレ目標の+2%を上回る物価上昇が続くとみられ、それに対応して高い政策金利水準が維持されることで、景気が悪化するリスクに注意する必要がある。

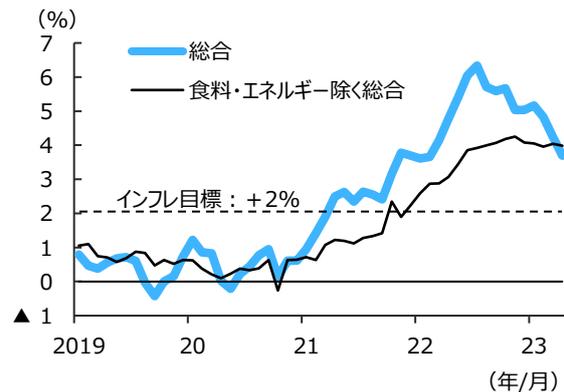
<実質輸出>



(出所) CEICを基に日本総研作成

(注) 春節要因調整を含む季調値。括弧内は2022年の輸出全体に占めるシェア

<消費者物価指数(前年同月比)>



(出所) CEICを基に日本総研作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。